

[畑・転換畑作部門]

3. 小麦「ふくほのか」の蛋白質含量適正化の目安

[要約]

「ふくほのか」は、出穂 10 日後の葉色(S P A D 値)が 40 以下では蛋白質含量が 8.0% 以下となることが多い。この場合でも、出穂 10 日後に実肥を施用すれば蛋白質含量を増加させることができる。

[担当] 作物研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275 (作物・経営研究室)

[分類] 情報

[背景・ねらい]

本県で新しく奨励品種への採用が予定されている「ふくほのか」は、蛋白質含量が低い。そこで、出穂後の葉色と蛋白質含量の関係を検討し、実肥による蛋白質含量適正化の方法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 実肥を施用しない場合、出穂 10 日後の葉色が 40 以下であると、蛋白質含量が 8.0% 以下となりやすい。特に慣行施肥体系では、葉色 40 以下となりやすい(図 1)。
2. 葉色が 40 以下であっても、実肥を施用することで、葉色に関係なく蛋白質含量を増加させることができる(図 2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 県中南部のドリル播栽培、11 月中下旬播種に適用する。
2. 「ふくほのか」は、「シラサギコムギ」の慣行施肥では蛋白質含量の適正化が難しい。
3. 「ふくほのか」は、低アミロース品種であり、蛋白質含量の基準値は 9.7% ~ 11.3%、許容値は 8.0% ~ 13.0% である。
4. 葉色は展開第 2 葉を測定する。
5. 実肥を窒素成分で 3 kg/10a 以上施用すると未熟粒の発生等で品質が低下することがある。

[具体的データ]

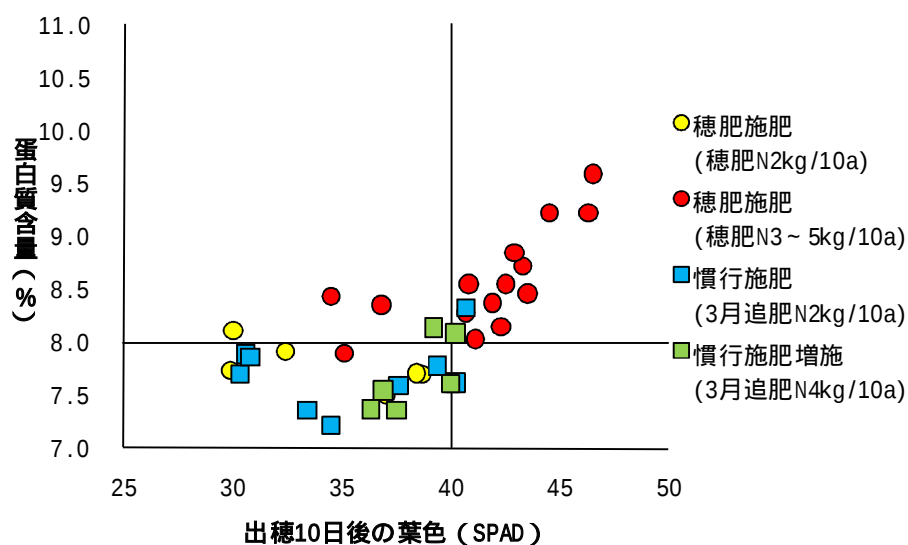


図1 実肥を施用しない「ふくほのか」における葉色と蛋白質含量との関係（2007～2009年）

注）慣行施肥体系は〔基肥－2月追肥－3月追肥〕、穂肥施肥体系は〔基肥－2月追肥－幼穂30mm期穂肥〕である。

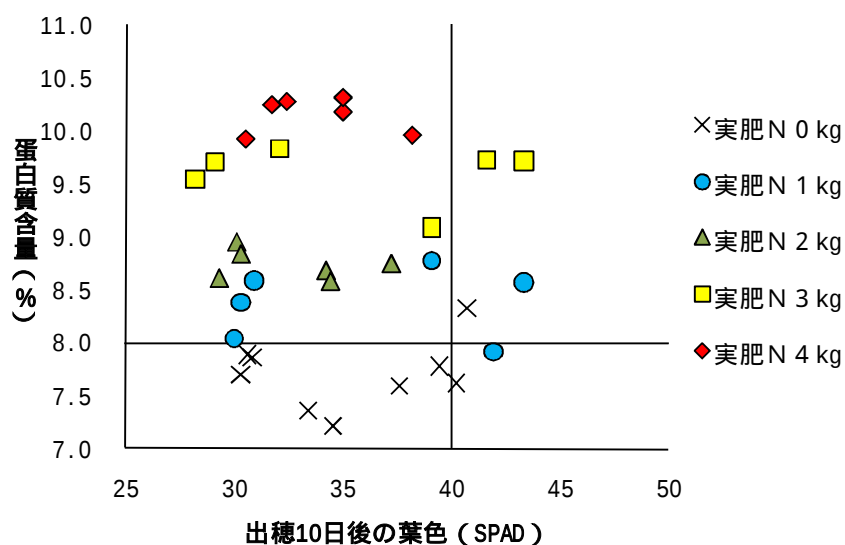


図2 実肥施用量の異なる「ふくほのか」における葉色と蛋白質含量との関係（2007～2009年）

[その他]

研究課題名：小麦有望品種「ふくほのか」の高品質栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2007～2009年度

研究担当者：井上智博、宮武直子、新見敦、杉本真一

関連情報等：1）平成21年度試験研究主要成果、21-22

2）平成21年度試験研究主要成果、23-24